

今回の保健師職能集会・講演会は、より多くの皆様に参加し学ぶ機会を持っていただけるよう、オンラインで開催しました。

【保健師職能集会】

本館敦子神奈川県看護協会長より挨拶、続いて、保健師職能委員会の横森委員長より保健師職能委員会の活動目的や会員支援事業、公益目的事業並びに、2024年度の活動の振り返り、2025年度活動計画について報告しました。最後に、職能委員の新旧メンバー紹介を行い、集会を締めくくりました。

【講演会】

「保健師の専門性について改めて考える」というテーマのもと、武蔵野大学看護学部の中板育美先生をお迎えし、ご講演いただきました。ここでは講演の内容の一部を紹介します。

1. 保健師に求められる二つの視点

保健師が「一人ひとり（個）」と「集団や地域社会（集団）」の両方に目を向け、「ソーシャルワーク的思考（対人援助）」と「公衆衛生的思考（個人と集団の利益の調和や社会環境への働きかけ）」の双方を活かした活動や、その視点からの予防への取組が重要。

2. 予防を進歩させる保健師の役割

保健活動の中では、医療の価値を「疾病対策」にとどめず「健康的に生きることを支える」という視点でも捉えることが大切である。発症年齢を遅らせたり、健康寿命を延ばしたりといった取り組みを積み重ね、次の世代へ向けて予防を進歩させていくことも、保健師の専門性のひとつである。

3. コアバリュー・コアコンピテンシーと社会的アプローチ

保健師のコアバリューやコアコンピテンシーについても触れられ、個別支援（川下）だけでなく、社会や環境に働きかける「川上対策」が大切である。「川上が変われば川下も変わる」といった考え方や、集団へのアプローチだけでなく、支援が届きにくい方々と関わることが重要である。

4. 「地域で看護する」から「地域を看護する」へ

「地域で看護する」ことは看護職全体に共通するが「地域を看護する」という視点で取り組むことは保健師ならではの特徴。個人や家族への支援だけでなく、地域や社会全体にも幅広く目を向けている点が、他職種との違いのひとつとして挙げられた。

5. 健康日本21（第3次）と地域づくり

健康日本21（第3次）が目指す「誰一人取り残さない健康づくり」や健康格差解消、社会環境への働きかけについて紹介された。「平等」と「公平」の違いとともに、行政が公平性に配慮しながら、多様な立場の方々と協力して健康づくりを進めていくことが重要。

6. グループワーク

参加者同士で日々の活動ややりがい、課題について自由に意見交換を行った。川上の視点で取り組みたい一方で、日常では川下の対応に追われる場面も多いこと、自分の役割を他職種や住民との関わりの中で感じていること、実習生の受け入れや若手への思いなど、それぞれの経験や考えを出し合い、コアバリューやコアコンピテンシーについても振り返る機会となった。

7. まとめ

最後に、中板先生からは、大学と行政が連携や、日々の実践を通じて得られる経験・学びを次の世代へつなげていく意義についてお話があった。また、保健師が計画策定などにも参画することで、現場や住民の声が行政にいかされやすくなるのではないか、という思いも伝えられた。

講演名	2025年度 保健師職能集会・講演会 タイトル：『保健師の専門性について改めて考える』 講師：中板 育美 氏（武蔵野大学看護学部 教授）
講演日	2025年7月17日（木）
開催方法	オンライン講習（Zoom）及び オンデマンド配信
講演時間	13時30分から16時30分（受付13時00分から）
参加人員	申し込み人数 27名（うち非会員5名） 参加者 17名 職種（保健師15名、看護師2名） 後日オンデマンド配信（7月29日～9月25日）8月18日より延長 申し込み人数 28名（うち非会員5名） 受講完了者 22名 職種（保健師22名、看護師6名）
会場	神奈川県総合医療会館 第1研修室より Web 配信

◆2025年7月17日(木) 保健師職能集会・講演会「保健師の専門性について改めて考える」
7/17(木)ライブ配信・7/29(火)～9/25(木)オンデマンド配信（ご要望により8/18より延長）

アンケート回収率 回答数 n=35

申込者（ライブ27,オンデマンド28）

受講者（ライブ17, オンデマンド22）

アンケート回収（ライブ15, オンデマンド20）

89.7%

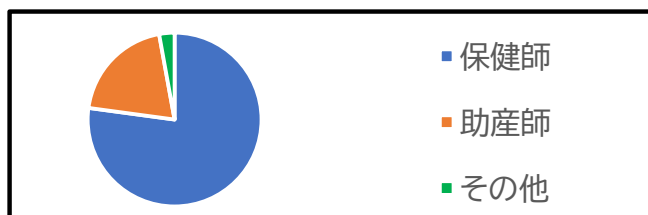
55

39

35

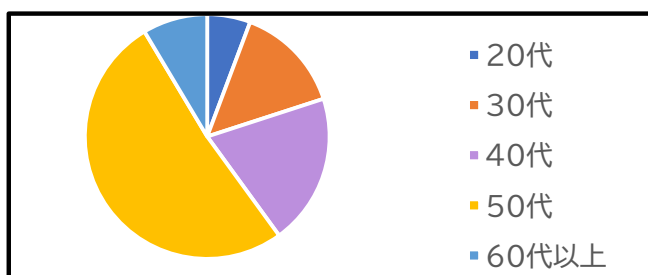
(1) 参加職種

保健師	27
助産師	7
その他	1



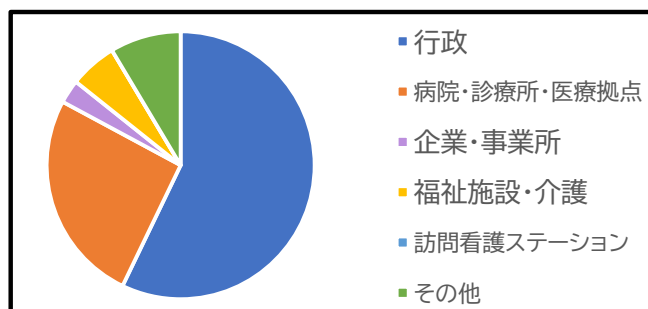
(2) 年代

20代	2
30代	5
40代	7
50代	18
60代以上	3



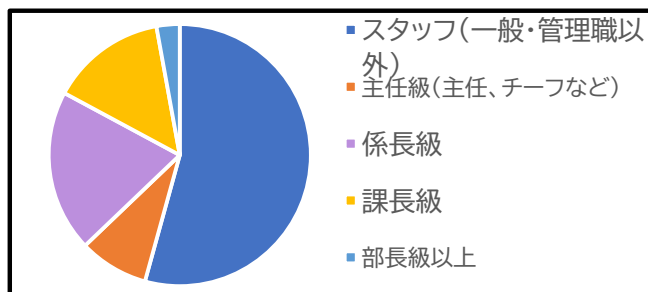
(3) 所属

行政	20
病院・診療所・医療拠点	9
企業・事業所	1
福祉施設・介護	2
訪問看護ステーション	0
その他	3



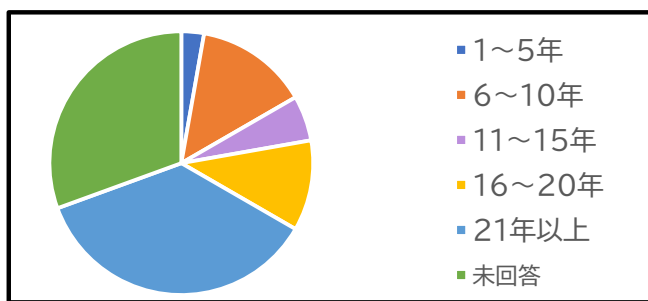
(4) 職位

スタッフ（一般・管理職以外）	19
主任級（主任、チーフなど）	3
係長級	7
課長級	5
部長級以上	1



(3) 経験年数

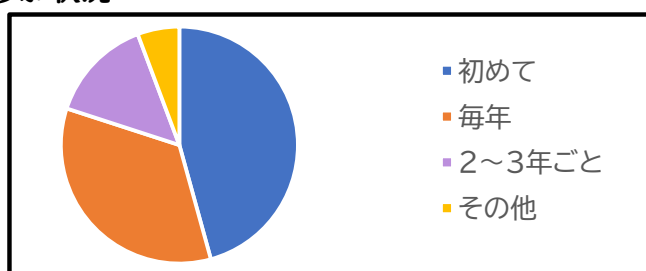
1～5年	1
6～10年	5
11～15年	2
16～20年	4
21年以上	13
未回答	11



1 保健師職能委員会の企画する講演会や研修会の参加状況

初めて	16
毎年	12
2～3年ごと	5
その他	2

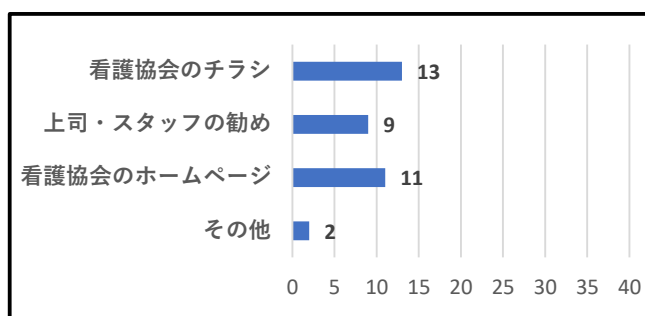
10年に1回ぐらい
都看協会員のため2回目の参加



2 研修をどのようにして知りましたか

看護協会のチラシ	13
上司・スタッフの勧め	9
看護協会のホームページ	11
その他	2

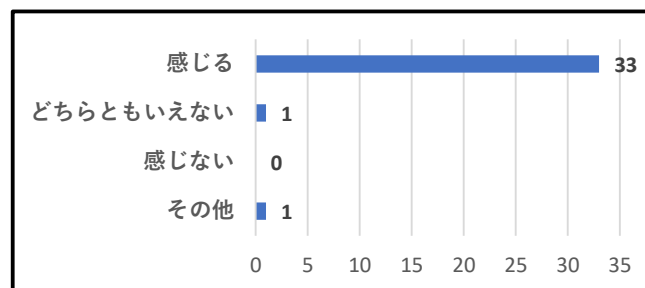
保健師の会議
看護協会LINE



3 研修の内容について

(1) 必要性を感じるものでしたか

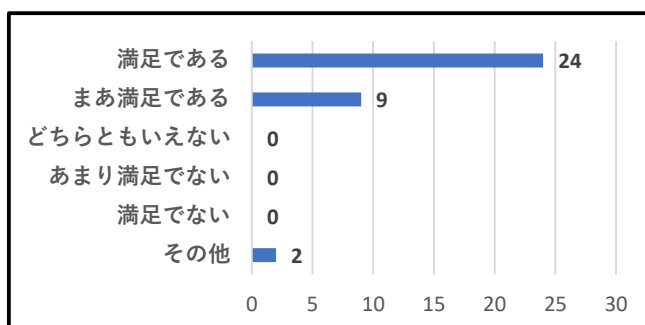
感じる	33
どちらともいえない	1
感じない	0
その他	1



(2) 満足できるものでしたか

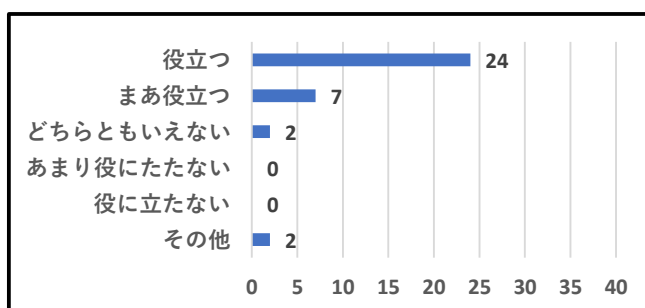
満足である	24
まあ満足である	9
どちらともいえない	0
あまり満足でない	0
満足でない	0
その他	2

オンデマンド開始の案内がなく、結局聞けなかった



(3) 今後の職務に役立つものでしたか

役立つ	24
まあ役立つ	7
どちらともいえない	2
あまり役にたたない	0
役に立たない	0
その他	2



4 研修会の感想・お気づきの点

- ・保健師が周りにいない職場だと、専門性を見失いがちになるが、職場ではなく、地域や住民によって専門性を育ててもらい、見出していくものだと感じた。地域に感謝したい。

- ・個別ケースに対応する中で、つい川下対策に終始しがちなのですが、保健師としては川上対策を常に意識して公衆衛生の向上に努める必要があることがよく分かりました。

- ・今後、特定保健指導なども行っていく予定のため、保健師の専門性について考えたいと思い参加しました。行政で活躍されている保健師さんが、川下・川上対策をされていることを聞きました。私自身、日々の業務は川下対策に近く、医療機関に受診される意識が高い方と関わります。その中で個人との信頼関係を築きつつ、個人だけでなく、予防的観点を踏まえ、地域全体にも働きかけていくことが保健師として重要であると改めて感じました。

- ・保健師活動の基本に立ち返ることができました。

- ・現場では、業務に追われ、「保健師とは何か」を考える時間もなくなってきました。保健師として市民や関係機関とどう関わればいいのか、何をポリシーとして従事していけばいいかを学ぶことができ、とても心に刺さる講義内容でした。

- ・川下の仕事・業務が増えるなかで、予防に視点を置き、地域で生活する集団を守る・支援するというところに保健師の活動理由があるからこそ、川上に重きを置き役割・能力を発揮する。そのことを改めて振り返り、思考整理ができました。

- ・グループワークで、他の方の意見を聞いて、自分が言語化出来ていないことを言語化されていたので、モヤモヤしていたことがクリアになりました。

5 今後、研修会でとりあげて欲しいテーマ

- ・再任用や役職定年後の働き方に関する事

- ・保健師として地域課題をアセスメントし事業化、施策化するためのトレーニングにつながる研修があると良い。オンラインでの参加が難しい。そのためアーカイブはありがたい。できれば土日開催も検討いただきたい。

- ・いまさらですが、地域包括ケアシステムとは何かを、もう一度学びたいです。高齢福祉分野の職員だけでなく、若い世代からの重症化予防なども取り入れた仕組み作りが必要である事を、オール保健師が理解しないと、スピード感が遅く、2040年問題に間に合わないと思います。

- ・オンデマンド配信を延長いただけると嬉しいです。

- ・新たな政策・施策をどのように理解し、保健師の活動にとりこみ、役割を発揮・整理していくのかというのは、中板先生の視点で、続編があると面白いと思いました。

- ・産業の保健師教育にも力を入れる話が冒頭にございましたが、ぜひそのような機会も増やしていただきたいと思います。